

扶助者聖マリアのノヴェナ

8日目（5月22日 土曜日）

聖母マリアの母性的現存・姿を、今日、再発見する。

「サンタ・マリア様のご像はどこ？」

- マリアの母性的な現存に気づく、確認する：自分の生活、家族、共同体、社会…
- 様々なマリアの姿、ご絵、ご像。家、教会。紹介する、その歴史や動機を分かち合う。



大浦天主堂



サンタマリア像

「親愛なる教区長さま、心からお喜びください。私たちは昔のキリシタンの子孫たちがたくさんいるすぐ近くにいたのです」。パリ外国宣教会から日本に派遣され、長崎に来ていたプティジャン神父は、その存在が絶望的と思われていた潜伏キリシタンと出会った喜びを、生き生きと手紙に綴っている。

大浦天主堂の落成から1カ月後、閉じられた門の前に10数名の日本人がいた。プティジャン神父は日本人たちを堂内に入れ、祈りを捧げ始めた。すると3人の女性が近づき、そのうちの1人が神父にこうささやいた。「ワレラノムネ、アナタノムネトオナジ」。そして浦上から来たことを告げると「サンタマリアの御像はどこ？」と尋ねた。潜伏キリシタンたちの命懸けの告白だった。プティジャン神父が幼子イエスを抱いたマリア像の前に連れていくと人々は感動を口にした。堂内に人が入ってくる気配を感じると、すぐに四方に散った。「信徒発見」——それは神父たちに希望を与え、各地の潜伏キリシタンをも勇気づけた。

<分かち合い>

調布： マリア様との出会いはADMAの設立に招かれたときにはじまります。

それまで、マリア様を特別意識したことはありませんでしたが、唐突な扶助者聖母マリアとの出会いによって、私の信仰生活は大きく変わったと感じています。特に感じることは、マリア様はご自分からイエスへと導いてくださるお方であるという確信です。

せせらぎの黙想の手助けへのお誘いも、もう7年くらい続いています。コロナ禍での聖書100週の招きも、ZOOM ロザリオの招きも、気が付いたら私の生活は今すべて祈りで回っています。そのおかげで最近、毎日の生活の中に、み言葉の中に、また聖霊の中に、さらに隣人の中にイエスを見出すことが多くなってきました。イエスとの出会いによって私たちの生活は大きく変わります。それは私自身に執着することから他者へ向かうということを手助けしてくれます。私がしたいことではなく、神様が望まれることへ心を向けるという大転換です。家族をはじめ、日々の生活の中で出会う人々、困っている人、苦しんでいる人へ心を開き寄り添う生活。

私の人生をマリア様が導いてくださっているという、マリア様に対する信頼が少しずつ芽生え始めてきています。

（藤永）

土浦： Tシスターが毎日送ってくださる Facebook。新しいことが沢山。そのような中にマリア様を感じる事が多くあります。何か困ったことや悲しいこと、逆に楽しいこと、嬉しいことを心の中でつぶやくことが多くなってきたような気がしています。姪の子ども達もすっかり慣れて付き添い無しで近くの公園にまで遊びに行くようになりました。心の中でマリア様、守ってくださいと祈ります。無事に帰ってくるとホッと、感謝します。色々な時に口ずさむ「**アヴェ・マリアの祈り**」は習慣になったようです。(江口)

浜松：水谷

シャワー招待

浜松教会では、20年以上前から、駅前ホームレスの人たちのためのおにぎりとお味噌汁配りのボランティア活動が続けられていますが、社会活動家の人たちの努力によって、いまではそのほとんどが生活保護を受けている人たちです。

その中に本当に路上で生活している人たちが、わずかですが居ます。その人たちのために、教会のシャワーを使ってもらうという取り組みをここ1年半くらい前から始めています

以前、土曜日の、集まる時に開催したこともありますが、大勢で食事をするのは、一人ひとりに気を配ることができないというデメリットに気が付きました。主役の人数に比べて、スタッフの人数ばかりが多くなってしまい、主役はすのである彼らが声もかけられずに小さくなっている感じがしたのです。そこで、平日に時間を移しました。

平日の昼間ですから、この活動は日本人が担っています。シャワーを浴びて、昼食をみんなで一緒に食べて帰っていただくというコースです。食事の最後には、誰もが知っている歌、例えば「春が来た」、「夏は来ぬ」など、それぞれの季節に合った歌をみんなで歌ってお開きとなります。今は歌を歌ったり、会食したりすることができないので、提供できることは、シャワーと外でのお弁当と、ちょっとしたおしゃべりです。

声掛けは、教会外部の社会活動家の方が受け持ってくれています。1人の時もあれば5人の時もありません。路上で生活している人に限っているし、シャワーが一つなので、人数を限定しています。今は月1度のペースが定着しています。

路上生活者への、最終の支援とは、その人が自立して自分で生活を立てることができるよう援助することでしょう。

でも中には我々が思うところの最終の支援を自ら選択しない人たちがいます。

それぞれの背景があります。社会で働いて生活する能力に欠ける人。集団生活で、周りに合わせてやっていくことができないではみ出してしまった人。

親族との縁を切りたい、迷惑をかけたくない、知られたくないという理由で、住民票をあえて提出しない。路上生活を長く続けている人は、そんな背景を持っています。

そのような人たちに、ちょっとだけでもうれしいな幸せだなというひと時を提供すること。それが私たちのしていることです。

心がけていることは、自らお話してくれる以上のことをあまり詮索しないこと。でもそれぞれの名前を憶えて、一人一人に気を配ることです。また、してあげているという上目線にならないこと、できるだけ同じ目線になり、共感することです。

高田さんのエピソード

そんななかのひとりに高田さんという方がいます。痩せて小柄なおとなしい人です。はじめのうちはほとんどしゃべらない人でした。でもそのうちに次第に打ち解けて、特に人数の少ない時にはおしゃべりになります。路上での生活はある意味サバイバルの達人です。猛暑の時、極寒の時の過ごし方、など工夫をしなければいけない。水の出るところ、トイレの場所などの把握。ある意味私たちにとって未知の世界の話。彼の持つ生活の知恵を聴くのも興味深いです。

彼は、シャワーもさることながら、人とおしゃべりをしたり、いっしょに作業することが楽しいと言ってくれます。

20年以上もこのような生活をするのは、ある意味相当な意志も必要です。

人の手を借りて、違う生活の選択はできたでしょう。でも彼はそれをしなかった。彼の場合、自ら選んでその生活をしているわけです。

もちろんこの先高齢になって、このような生活ままならなくなる時が来るでしょう。その時は、また違う選択をせざるを得ないでしょう。

時々、感謝の気持ちを折り鶴にして持ってきてくれるようになりました。新聞紙で作るのですが、駅前で配られる赤旗新聞の紙質が良いし、手渡しされたあたらしいものなので、わざわざそれを使って折るんだそうです。そして歩いて教会まで届ける。そうした行動の全行程が彼の感謝の気持ちなのだと説明してくれました。

シャワーを提供するというだけにとどまらず、その人の背景を知ることによって、人となりもわかってきます。そうやって、信頼関係も徐々に生まれてくるのではないのでしょうか。このように、自ら表現したり行動を起こしたりしてくれる高田さんはある意味特殊な存在かもしれません。ですが、このように個人対個人の信頼関係を築いていくことは、誰との間でも可能性を含んでいるものではないのでしょうか。様々な要素が絡み合うことで、理屈のように単純にはいかにしても、希望はあると思いたいです。

とはいうものの、振り返って自分自身のことでは、一番身近である夫との関わりでは、悪いところばかりが目について、優しい気持ちで接することができていません。相手に対する感情は、置かれた立場、状況、相手との関係性など、様々な条件が絡んでくるものです。頭で考えることと実践することを一致させることがいかに難しいか、身近なところでさえ、この有様ですから、人を理解し受け入れることがいかに難しいかがわかります。それでも希望はあると思いたいです。

喜んでもらっている事がこちらの喜びになる。それがこのシャワー招待を続ける原動力だと思います。

<扶助者聖母マリアのご像の紹介>

センター門の扶助者聖母像



2010年、外国籍の子供たちの居場所として司牧センターが建設されました。オラトリオ、青年達の集い、サマーキャンプ、黙想会、復活祭パーティなど広く使用されています。

センターに入る門の所、奥の教会への道端に純白な扶助者マリア像が凜とした姿でたてられています。冬の晴れた空気の澄む時期には、マリア様の横に遠くの富士山が望めます。

また明るい月夜には真っ白なマリア様が幻想的な姿を見せてくれます。

人生の節目（成人式、進学など）の折りにはマリアさまの前で記念撮影をしているのを見かけます。

この司牧センターから巣立って行く若者達を母なるマリア様は温かい眼差しで微笑まれています。そして私達が教会を訪れた時、また去る時はご挨拶して通ります。

このマリア様はセンター建立のときにサレジオ会管区長でいらした故チブリアー二神父様から届けられたのです。



<最後の祈願（ドン・ボスコが作成した扶助者聖マリアへの祈り）>

「おお、マリアよ、力あるおとめ、
輝かしい教会の母、
素晴らしいキリスト者のたすけ、
戦いにあって配置された軍勢のような力をもち、
世界のあらゆる異端をうちこわし、
不安や苦難、
困難にあってから私たちを守るマリアよ、
私たちが死を迎える時、
魂を受け取り、
天国へと導いてください。
アーメン」

<祝福>



